

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー 【2014No.24】 (HP 掲載)

分類：CDR

作曲家：

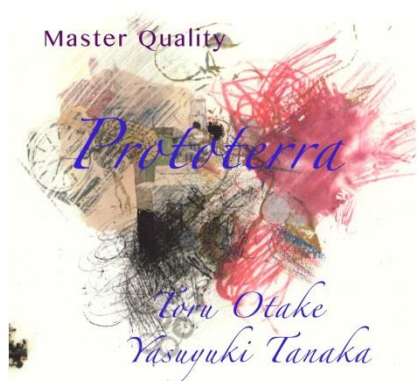
曲名：

演奏： OTAKE Toru (Viola) ・ TANAKA Yasuyuki (Percussion)

発売： インフラノイズ

No. : INF-5003

概要：



マスタークオリティ盤第2弾のUniclaに続く第3弾のPrototerraと題するマスタークオリティ盤です。マスタークオリティ盤第1弾は2007年のインフラノイズ録音の焼き直し盤、第2弾はマスターを借りての焼き直し盤ですが、この第3弾は最新のオリジナル録音マスターからCDRに焼いたということで発売のアナウンスを知って早速購入しました。

試聴ルート下記のとおりとします。

PC→micro iDSD→DA-3000 (44.1 KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD  
(DA-3000 よりクロック供給)

ここで、DA-3000 には ABS-7777 から 44.1 KHz のクロックを供給します。

外付けドライブからの CDR の読み出しは下記のとおりとします。

Plextor Premium 2U→PC

CDR は Plextor Premium 2U から読み込んで、HQPlayer Desktop3 ASIO により 256sDSD ないしは 512sDSD にリアルタイム変換して聴いてみました。ライナーノートを見ても、曲名や作曲家の記載もなく、音楽というものの、まるで出たところ勝負の前衛的な即興演奏のようで、しかもクラシックでは比較的内声部の地味な役割を果たしているヴィオラとスパイス的なパーカッションの異色の組み合わせです。演奏内容はほと

んど馴染のないものでしたが、現代音楽というよりは、中世の音楽のような音楽性を感じてしまいました。

本年はヴィオラについてはヴィオラ独奏と弦楽カルテットをいくつか聴きました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2302>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2668>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=3322>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=3849>

こういったクラシックの正統的な演奏スタイルとはまったく異なり、中世の路上音楽のような形にはまらない演奏と言う印象です。

このような音楽には馴染がありませんが、音としてはパーカッションの切れ味とダイナミックレンジ、ヴィオラの弦の震えや倍音の出方、ヴァイオリンやチェロにはない、生音の再生が難しい、ヴィオラ特有の若干乾き気味の胴鳴りの音などが極めてリアルに出てきます。また、パーカッションは楽器というよりは器物を使った効果音のような多種の音が極めてリアルに聴け、4 Track 目の冒頭のシンバルの一撃は音の立ち上がりの爆発がすさまじく、そういう意味では、和声の表現から騒音とも言えるような暴力的な音の洪水まで再生能力を問えるのでオーディオチェック用として最適と思われます。これらのポイントがクリアできるオーディオ装置であれば、マーラーの1番の4楽章終盤の弾け方などは難なく満足できると思われます。

マスタークオリティ盤の前作と比較しますと、上述のように第1弾は2007年のインフラノイズ録音の焼き直し盤、第2弾はマスターを借りての焼き直し盤とのことでしたが、この第3弾は最新のオリジナル録音マスターからCDRに焼いたということで、鮮度感は一歩上回っています。なお、前作についての印象は下記のディスコグラフィのページに掲載しています。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/03/fd978df2f0a659ec11322befa1db83fb.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/03/434b738a6f157a2d547c41f3967551c3.pdf>

なお、インフラノイズのHPには、CDR故、かかりにくいプレイヤーがあるとのことでしたが、上述のPlextorのドライブ、EMT981、EKJapanのCDプレイヤーキットで問題なく再生できました。

